

(様式2)

平成 22 年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1570105112		
法人名	社会福祉法人 正瑛会		
事業所名	グループホーム翠風園 2 花浅季ユニット		
所在地	新潟県新潟市南区高井東2丁目13番33号		
自己評価作成日	平成23年1月8日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.n-kouhyou.jp/kaigosip/Top.do">http://www.n-kouhyou.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2-2-2 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成23年2月25日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・毎回書く事ですが、日々の食事に気を使っています。身体によく、なおかつおいしく、健康に寄与するものを提供できるよう、職員みなで考えています。地元で取れる新鮮な食材を使い、調味料も多少高くても添加物のないものを使っています。毎日の食事に気をつけることによって、入居者様の健康を保ち、健やかな日々を少しでも長く送って頂きたいと考えています。職員は主婦が多く、お料理も抜群です。手焼きのパン、手作りのケーキもお手の物で、誕生日会のケーキも職員が焼きます。飾りつけは入居者様。家を離れてグループホームに来られた入居者様に、職員全員を含めてもう一つの家族でありたいと願っています。

・園内には四季折々の花々が咲き誇り、法人の広い敷地内だけでも素晴らしい散歩コースです。更に今年はたわわに実ったイチジクをはじめ、ラズベリー、ブドウなど職員が小さな苗木から植えたものが育ち、今は毎年ジャムや甘露煮を作って楽しめるようになりました。収穫係はもちろん入居者様です。収穫中にちゃっかりイチジクが口の中に入るのは、楽しみな役得です。植える人、育てる人、収穫する人と、職員と入居者様の役割が見事にマッチしているように思います。

・園内の家庭菜園は少しずつですが様々な種類を作付けしています。特にジャガイモやサツマイモの芋ほり大会は全員総出で汗まみれですが、その後の話題に花が咲き、「昔はサツマイモの茎を炒めて食べたものだ」と入居者様から聞き、早速イモの茎のキンピラが出来上がり、その日のおかずになりました。梅干や漬物などは入居者様が大先輩です。長い間に身につけられた叡智を惜しみなく分けてくださる入居者様に、職員は学び行く日々です。そういう意味でも得がたい職場だと思っています。

自然の恵みや人生の先輩である利用者に感謝の気持ちを持つと共に、この地域のために何かしらの貢献をしていきたいという思いが込められて、「報恩・感謝・奉仕」という法人の理念が掲げられている。管理者、職員はこの理念を大切に、日々の実践に努めている。

事業所内の広い敷地では四季折々の花々を楽しむことができ、利用者は日常的に散歩を楽しんでいる。家庭菜園では利用者、職員と一緒に野菜作りを楽しんでおり、食卓には取れたたの野菜料理が並んでいる。

ホームでは利用者との会話や笑い声が絶えず、非常に温かい雰囲気がある。利用者中心のケアを行うという考えから、利用者本人が希望を書き込んだり、職員が日々のかかわりの中で得た情報や気づきをもとに本人の希望を代筆するためのノートが設けられ、ここに記入された内容を日々の生活やケアに反映させている。利用者の声や希望に出来るだけ応えていこうとするホームの方針が、全職員に徹底されている。

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・法人の理念は「報恩・感謝・奉仕」であるが、具体的に分かりづらいとの声もあり、昨年1年、事業所の目標を「理念を理解し実践する」と定めて、理念の理解と行動に取り組んだ。	法人の理念を現場でどのように具体化するか、職員で話し合い、「グループホーム翠風園基本目的」を作成した。利用者と職員が尊厳、協力、思いやりを持って暮らしていこうという思いが込められている。これを毎朝唱和し日々の実践に繋げている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	・事業所が自治会の一員として、町内の行事などに出かけられる入居者は、率先して出かけている。 ・ドブ掃除、草取りなど、町内一斉に行うものには参加できる入居者が行っている。	自治会の祭り、地域の文化祭等に参加し地域住民との交流を図っている。また、下水掃除や草取りなどの地域活動にも利用者、職員が参加し、地域の一人としての役割を果たせるよう努めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・地域への介護教室などは開けていない。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・日常生活、行事やホームの取り組みなど、出来るだけ詳しく報告している。 ・ご家族の想いなど充分に聞かせていただく機会となっており、地域包括支援センターの意見もそのつど大きな参考になっている。	本人、家族、民生委員、コミュニティ協議会の会長、地域包括支援センター職員等の参加を得て、ホームでの取り組み状況などの報告をしている。8月は納涼祭に合わせて実施し利用者や職員の暮らしぶりを見てもらう機会としている。	運営推進会議を地域の理解や協力を得る貴重な機会として捉え、外部の人の目を通じた改善課題の発見にも活用していくことを期待したい。また、これまでは概ね3ヶ月に1度の頻度で行われていたが、今後は制度上適切な頻度(2ヶ月に1回以上)で行うことが望まれる。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・管理者が介護認定審査委員であり、月に何度か区役所を訪れ、必要に応じて担当各課に相談にのってもらっている。 ・他グループホームの運営推進会議委員であり、市町村職員とも意見交換が出来ている。	管理者が事業所の運営等に関して相談したい時は適宜、区役所を訪ねて指導を仰いでいる。また、南区の事業所のネットワーク勉強会でも行政の担当者と意見交換が出来、相互に良好な関係が保たれている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・職員みなで具体的に何が身体拘束になるのかを勉強し、日常のケアに活かしている。	職員を外部研修に派遣し、研修の内容を共有することで職員全体での理解を深め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。ホームが車の往来が非常に多い国道に隣接しているため、安全確保を目的に玄関の内鍵をかけることがある。	利用者が自分の意思で開けられない施錠があることの弊害や意味について、「指定基準において禁止の対象となる具体的な行為」を踏まえて管理者、職員で再度確認してほしい。鍵に代わる工夫や代替策についても定期的に話し合いを続けていくことを望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・高齢者虐待防止法の内容について学び、職員への周知を図っている。入居者に対する職員の言葉や態度にも気をつけ、その場で注意しあう環境を作っている。	管理者と職員は、利用者との日頃のかかわりの中で言葉や態度に虐待にあたる行為が含まれていないか、お互いに確認や注意をし合い日々のケアを行っている。参考になる資料を職員間で回覧することで理解を深めている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・管理者をはじめ役職員が機会を見ては成年後見制度の研修会などに参加し、内容の理解に努めている。 ・過去に何人か必要性を感じず入居者もおられ、制度の理解が欠かせない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入居前の見学時、また契約時に出来るだけ詳細に説明を行っている。 ・本人や家族が疑問や不安を口に出しやすい雰囲気作りに努め、疑問・質問等あれば丁寧に説明している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・管理者及び職員は入居者の方達と個別に向き合う時間を作り、悩みや要望などを把握して対処するよう心がけている。 ・家族にも何でも相談していただける環境と雰囲気を作り、気軽に話して頂けるようになっていく。	本人自身や、職員が代わって利用者の希望や思いを書き込めるノートを用意し、把握に努めている。ノートには利用者の要望に対してホームがどのように対応できるかについての応答欄も設けている。また、家族に対しては、面会時に要望や意見を聞くよう努めている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・管理者、各ユニットリーダーは日常的に職員の意見や提案を良く聞き、運営に反映させている。 ・代表者は職員の意見をよく聞く機会を設けている。	法人代表者は定期的に職員一人ひとりと面談し、意見や提案を聞く機会としている。また、管理者、ユニットリーダーは、日頃から職員が意見を言いやすい雰囲気づくりに努め、出された意見・提案を運営に反映させるように努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・代表者・理事・評議員・管理者が参加する経営会議が月に一度開かれ、管理者は職員の心境・取り組み・功績等報告している。 ・代表者や理事は、機会あるごとに職員への激励と感謝の声かけを実践されている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・法人内で講演会、研修などを計画し、職員の技術向上に努めている。 ・外部の研修も積極的に受講できるよう勤務の配慮をし奨励している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の配置に余裕があるときは、積極的に同業他施設への見学を計画し実施している。</li> <li>・他施設との交流会など計画し実施している。</li> <li>・他施設からの見学、実習、研修依頼は常に受け入れ交流を図っている。</li> </ul>		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入居者本人をよく観察し、その想いを汲み取るようにしている。</li> </ul>		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族とのコミュニケーションをとりながら、不安や希望を聞く機会を作っている。</li> </ul>		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人・家族の意向を良く聞き、可能な限り応えていけるようにしている。</li> </ul>		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活動作を、それぞれの状態に合わせて本人からも積極的に参加していただき、また参加できるように支援している。</li> </ul>		
19	(7-2)	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族への行事参加を呼びかけ、また便りをしている。</li> <li>・家族より受診を出来るだけ協力していただき、身体状況や生活状況を説明している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族は本人にとってかけがえのないものであるという認識の下で、行事への参加や受診の付き添いを依頼し、ホームと家族が協力して本人を支えていく関係構築に努めている。</li> </ul>	
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人の希望を聞き取りその話をしたり、時にはその場所を尋ねて、その関係の方へ手紙を出すなどしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームに入居してもこれまでの生活が継続されるよう、行きつけの美容院に通ったり、お墓や仏壇参りに出かけたりと馴染みの場所への外出を支援している。また、友人や親戚の方が気軽に面会に来やすい環境づくりにも努めている。</li> </ul>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・入居者がどの方と気持ちが合われるか、また合わないかを把握している。 ・輪になるときは職員を交えて、スムーズな関係作りが出来るよう支援している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・全ての方にはないが必要に応じて、当園退去後のお見舞いや訪問等行い、家族から相談があれば応じている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・入居者様とのコミュニケーションをとり、ご本人の望まれている事を実現できるよう努めている。 ・自己表現が困難な方については、本人をよく観察し希望を把握できるよう努める。	利用者が行きたい場所、食べたいものなど自由に記入できるノートを用意し、意向を確認している。自分で申し出ることが出来なかったり、訴えが少ない利用者に対しては、日常の関わりの中から希望や思いを把握するよう努めている。	
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・在宅時や他サービス利用時の情報を収集し職員が周知するよう努めている。 ・入居者様の生活歴などの情報を、職員全員で共有している。	本人や家族から、これまでの生活歴やサービス利用状況、馴染みの暮らし方などを把握している。また、センター方式のアセスメントシートを活用して、利用者一人ひとりの情報を職員全員で共有するよう取り組み始めたところである。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・入居者様個々の出来る事や出来ない事を見極め、その日の体調等により適切な援助が出来るよう努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・毎月のカンファレンスを通して入居者様の現状を話し合い、ご家族や本人の要望や意向を介護計画に反映させている。 ・ご家族ともよく話し情報を得ている。	家族、本人等の意向などを大切にして介護計画が作られている。しかし、介護計画に基づいた具体的なケア内容について、適切に実施されたのか、その結果どうだったのかという評価の記録がなく、チーム全体で評価が適切に行われていることが確認できない。	介護計画に対する評価の記録は次の介護計画の見直しや変更、修正の根拠として重要なものである。介護計画に対する評価を職員全員で行い適切に記録するという仕組みの確立を期待したい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・ケース記録、業務日誌、個別記録表、また申し送り等で情報を共有し、必要時には計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・可能な限りご本人、家族等のニーズに対応し、フォーマル・インフォーマルも含め、様々な関係者の協力をいただきながら取り組んでいる。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域・市の行事参加や地元のスーパーへ買い物に出かけたり、理美容院へ出向き利用している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・定期的に掛かりつけ医への受診を行っている。 ・本人の状態により家族と相談し、専門医への受診を行っている。	家族や本人の希望により入居前からのかかりつけ医に引き続き診てもらえるよう支援している。基本的に家族に受診付き添いをお願いしているが、家族の協力が難しい場合は職員が対応している。また、必要に応じて往診してくれる医師もあり、適切な医療を受けられる環境となっている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・併設のデイサービスの看護師に随時相談にのってもらい、異変のある時は早急に対応している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院中も病院関係者と連絡を取り合い、本人の身体状況をよく把握し、家族とも情報を共有している。 ・退院後、速やかに普通の生活に戻れるよう受け入れ準備を整え支援している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・入居の際、家族と十分な時間をとり、現時点で施設の出来る事、出来ない事を説明し、施設の方針を伝えている。 ・話し合いの中で家族の理解を得ている。	入居契約時に、家族に対して重度化や終末期においてホームができること、できないことについて説明し、理解を得ている。必要な場面では、本人、家族の意向を尊重した上で、他の施設や医療機関へ適切につなげていけるよう家族と協力を行うこととしている。	
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・救急救命訓練を定期的に行い、職員全員が訓練に参加している。 ・救急対応が実際発生した時には、職員全員で振り返り反省点等を挙げ実践力を身に付けている。	救急法の訓練を年1回行い、急変や事故発生時は迅速に初期対応ができるよう実践力の向上に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> <li>火災・地震の際は緊急避難できる協力施設を確保している。</li> <li>水害の時は当施設が周囲より高い所にあるので動かない。</li> </ul>	併設のデイサービスセンター等と合同で、年2回火災や地震を想定した防災訓練を実施し、昼夜を問わず利用者を安全に避難誘導できるよう職員全体で取り組んでいる。また、近所の方にも災害時に協力してもらえよう、日頃から依頼している。	
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人の人格を尊重し、その方々にあった対応をするようにしている。</li> <li>排泄用品はなるべく目に触れないよう扱いをしている。</li> </ul>	すべての職員は利用者一人ひとりを人生の先輩として敬い、人格を尊重した対応と言葉かけに努めている。職員は互いに利用者のプライバシー等を損ねていないか注意し合いながら日々のケアを行っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>行事の計画などは入居者様の希望を取り入れるようにしている。</li> <li>外出やレクリエーション時、参加の希望を聞くようにしている。</li> </ul>		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人の趣味である尺八やハーモニカ、日記等、居室で自由に過ごされている。</li> <li>音楽や相撲のテレビなど、皆様と一緒に楽しまれていることも多い。</li> </ul>		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>外出時には服装を改め身なりをきちんとするとともに喜ばれている。</li> <li>理美容はご家族や行きつけのところに連れて行ってくださったり、近くの美容院から出張してきてもらっている。</li> </ul>		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>調理の下準備として野菜の皮むきやゴマをすってもらうなど、入居者様の力を発揮して頂いている。</li> <li>後片付けの積極的な手伝いもして頂いている。</li> </ul>	家庭菜園で作った季節の野菜を使ったり、買い物で出かけたときに利用者が気に入ったものを購入するなどして、食事を楽しんでいる。利用者一人ひとりの意欲や能力に応じて、食事作りから後片付けまで職員と協力して一緒に行っている。職員も一緒に食卓を囲み、会話を楽しみながら食事支援がなされている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>各々の注意すべき食品に配慮しながら、食べやすい工夫をしている。</li> <li>体調をみながら水分摂取に注意している。</li> </ul>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お1人ずつ口腔内の注意すべき点を確認しながら丁寧にケアしている。</li> <li>・曜日を確定し義歯の消毒をし、歯ブラシ・コップ・義歯ケース等も毎日消毒を行っている。</li> </ul>		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・失敗のあった時は清拭・入浴・清潔保持に努めている。</li> <li>・個々の排泄パターンを把握し失敗しないようトイレ誘導し支援している。</li> </ul>	尿取りパット等を活用してオムツの使用を控えるとともに、利用者一人ひとりの排泄パターンや尿意のサインに気を配りながら、さりげない声掛けや誘導を行って排泄の自立に向けて支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主食に玄米や雑穀を取り入れ、植物繊維の豊富なもの、野菜等の積極的な摂取に心がけている。</li> <li>・バランスの良い食事、水分摂取・規則正しい生活・適度な運動を心がけている。</li> </ul>		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入浴時はマンツーマンなので、積極的にコミュニケーションをとるように努めている。</li> <li>・皮膚の観察、全身状態の変化に気配りしている。</li> </ul>	入浴の回数や時間はおよその設定があるが、本人が希望した場合や排泄等で汚れた場合は随時対応している。入浴時は利用者と職員とが一对一で関わり、利用者がゆったりと落ち着いて入浴できるよう支援するとともに、じっくりとコミュニケーションをとる機会としている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その時の状態により気兼ねなく休んでいただくよう気配りしている。</li> </ul>		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各個人ファイルに服薬明細をファイルされているので、職員全員で共有できている。</li> <li>・症状の変化があれば主治医と連絡をとりながら、速やかに対応している。</li> </ul>		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各々出来る役割を決め、お手伝いをしていただき張り合いをもてるように努めている。</li> <li>・楽しみごとは全員で楽しめるような行事やゲームなど考えて行っている。</li> </ul>		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>全ての入居者の方々が個別に外出する事は出来ないが、全員で楽しめるような場所を選んで外出計画を立てている。</li> <li>入居者個人の買い物がある時はなるべく一緒に出かけ、本人に喜んでいただいている。</li> </ul>	<p>天気が良い日は利用者の希望に沿って散歩や敷地内の家庭菜園に出かけている。また、買い物希望する方には馴染みのデパートに個別に付き添ったり、自宅を見に行ったりと、家族の協力も得ながら外出を支援している。</p>	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人的にお金を所持することは難しくなってきたが、買い物に行かれた時はお金を渡し支払っていただいている。</li> </ul>		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前にご家族の了解をいただき、電話をかけたい方は掛けて頂いている。</li> <li>手紙を書ける方は自分で書かれている。</li> <li>年賀状・暑中見舞いなどなるべく本人に書いていただいている。</li> </ul>		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>入居者様と一緒に、フロア内を四季にあわせて飾り付けたり、外出時や行事の写真などを展示している。</li> <li>季節の花など飾っている。</li> </ul>	<p>共用スペースは、全体に木の温かみがある落ち着いた雰囲気であり、季節に応じた花や装飾品、写真等を飾って季節感やあたたかみを感じられる空間づくりをしている。ゆったりとくつろげるソファでテレビを見たり、中庭で餌付けした小鳥を観察したりと、利用者は思い思いに過ごすことができる。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>食堂テーブルは気のあった方達で席を決め、食事や会話を楽めるようにしている。</li> </ul>		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>ご本人が使い慣れたタンス、鏡、ご家族の写真、置物、テレビ、大好きな曲を聴くCD等、自分の好みのもの、懐かしいものをおき、自分の部屋である認識が出来るよう工夫している。</li> </ul>	<p>家族の協力を得て本人が自宅で使っていた馴染みの家具や写真等を持ち込んでもらい、その人らしい居心地の良い居室作りを支援している。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別対応に心がけ、落ち着いてお手伝い等していただけるよう声かけをして、1人1人の得意分野を活かしていただいている。</li> <li>可能な方には調理・盛り付け・配膳や、後片付け・洗濯物たたみ等していただいている。</li> </ul>		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当する項目に 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		1. ほぼ全ての家族等と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
				1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
				1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
				1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
				1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
				1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない